



ナイトNIRAマルシェで賑わいをみせるニコリ前

夢と感動のテーマシティにらさき2

# 笑顔 行き交う 賑わいの まちづくり



## 新たな市民の交流拠点「ニコリ」

市民との協働によるまちづくりをさらに推進するため、平成23年9月、韮崎駅前に、あらゆる世代が集い、交流できる、韮崎市民交流センターをオープンしました。

1階の市民プラザには、市民活動支援室を設置し、会議室や市民ギャラリー、調理室、陶芸・工作室、音楽室なども整備して、市民や市民団体による生涯学習活動や文化芸術活動を幅広く支えています。また、韮崎駅前という立地から、観光案内所や地域物産品の販売店、サッカーミュージアム、ふるさと偉人資料館、韮崎大村美術館サテライトスペースなども整備。地域の情報発信地として、市民だけでなく、観光客へのPRにも一役買っています。

施設内には子育て支援センターや市立図書館もあり、子育て世代の親子や学生、高齢者までが気軽に集う、協働のまちづくりの象徴ともいえる施設です。施設の愛称「ニコリ」には、大勢の人が「にっこり」とし

て集い、学び、さらに賑わいづくりを創出しながら交流していくようにとの願いが込められています。市では、ここを拠点にまちなかの散策や買い物ができるよう、併設の駐車場は4時間まで無料としています。



市民交流センター「ニコリ」



地域情報発信センター



市立図書館

多くの地方都市同様、中心市街地商店街の空洞化が、大きな課題となっており。市では、平成20年に「韭崎市まちなか活性化計画」を、そして平成25年には「第2期まちなか活性化計画」を策定し、元気で活力ある中心市街地の再生を推進しています。その実践的取り組みの一つとして定着しつつあるのが、「のれんのあるまちづくり」。商店街にある約160店の店先や軒先にのれんや店頭幕を掲げることで、甲州街道の宿場町として栄えたかつての面影が蘇り、街並みに一体感も生まれましました。平成24年度からは、来店促進を目的と

## 創意工夫を凝らし、まちなかに賑わいを。

したスタンプラリー「のれndeビンゴ」も実施し、街並みの散策に新たな楽しみを提供しています。

一方、平成23年から始めた朝市「NIRAマルシェ」は、26年からは会場をニコリに移し、夕市「ナイトNIRAマルシェ」として開催。開催日には、市内はもとより市外からも多くの買い物客が訪れ、活気づきます。

さらに、イメージキャラクター「ニーラ」のタイアップや「プレミアムふれ愛商品券」など、さまざまな視点から工夫を凝らし、地域の活性化に取り組んでいます。



広報の表紙を飾るニーラ



イベントでも大人気のニーラ



ステーションナリーを始め、ナンバープレートなどさまざまな広がりを見せるニーラグッズ。のれndeビンゴでもイベントを楽しく盛り上げた。

## 地域の資源を活かし、新たな魅力を創出

縄文時代には王国を築き、戦国の世には武田家を生み、江戸時代以降は甲州街道の宿場町、富士川舟運の船着場として繁栄を極めた韭崎。縄文時代から連綿と続く先人の営みは、多くの史跡や文化遺産となり、今に伝えられています。市では、そうした数々の文化的な資源を次世代につなぐとともに、韭崎の新たな魅力とし、まちづくりにも活用していきたいと考えています。「ふるさと歴史再発見ウォーク」は、広く市民の皆さんにそうした資産の存在を知り、その価値を再認識してもらうための催しです。

また、我が国の近代ビジネスモデルの先駆者であり、宝塚歌劇団の創始者でもある小林一三翁をはじめ、宮沢賢治と親交があり、「説には「銀河鉄道の夜」のジョバンニのモデルとも言われる保阪嘉内、身延鉄道の創始者のひとりである小野金六、生涯を掛けて韭崎の縄文遺跡を発掘した志村滝蔵など、多くの偉人を輩出したまちでもあります。市では教育や文化の発展につなげ、市民の誇りを醸成するために、ニコ



ふるさと偉人資料館

リ内にふるさと偉人資料館を設置し、こうした先人の偉業を広く紹介しています。



ふるさと歴史再発見ウォーク



小林一三翁生誕140周年として開催された「夏の武田の里 ふるさとまつり」のテーマは「夢からはじまる未来」。10年後の未来の自分に向けてメッセージを送るドリームステーションが登場した。